

「JSI 社のニュースレター」 「ビジュアルメディア EXPO2017」 「国際画像機器展 2017」

神谷 直亮

JSI 社のニュースレター

新年にたくさんのメールを受領したが、最も見応えがあったのは、日本スペースイメージング (JSI) 社のニュースレターであった。理由は、このレターに年末年始に観測衛星がとらえた 8 枚の写真が貼付されていたからである。中でも最も目を見張らされたのは、明治神宮の初詣客を映したものであった。もちろん個別の客の確認はできないが、居並ぶ人々の列がいかにも膨らんでいるかをきれいに捉えていた。ちなみに残りの 7 枚は、岐阜県の伊奈波神社、岡山県の最上稲荷、宝塚インターチェンジ、米ワシントンのナショナルクリスマスツリー、スペイン・マドリードのプエルタデルソル (太陽の門)、メキシコシティのソカロ (中央広場)、オーストラリア・シドニーのボークルーズ湾である。

「ビジュアルメディア 2017」

話題が旧年に後戻りするが、アドコム・メディアが主催した「ビジュアルメディア 2017」が、12月6日から8日までパシフィック横浜で開催された。「ビジュアルメディアが拓げる映像表現の可能性」をテーマに掲げた今回の展示会場は、「StageVR360 シアター」「3D & VR ゾーン」「ビジュアルコンテンツコーナー」の 3 部から構成されていた。

「StageVR360 シアター」では、VR 映像プロジェクトが制作した 2 本の 3D VR 作品が上映された。タイトルは「チャイナエクスプレス」「アジア・スピリッツ 2017」で、前者は 4K3D 実写映像と 3D CG VR 映像を合成したもので、後者は 3D360 度 VR 実写映像であった。特筆すべき点として挙げられるのは、異色の芸術家として知られる金大偉が登場し、サラ



写真1 渋谷光学は、球体リアプロジェクションシステム「Glomal 350」を展覧して目を引いた。

ンギ (インドの民族楽器) の演奏を、森や水と言った映像空間の中に溶け込んだような状態で聴かせていた。VR 用のヘッドマウントディスプレイ (HMD) はクリーク & リバーの「IDEALENS K2」を採用し、5.1ch 立体音響システムは JVC ケンウッドが設営したとのことであった。

「3D & VR ゾーン」には、渋谷光学、3D コンソーシャム、ソリッドレイ研究所、三友、ビジュアル コミュニケーションズ、クリーク & リバー、サークル、たしてん、立教大学高田研究室が展覧した。

渋谷光学は、球体リアプロジェクションシステム「Glomal 350」のデモを実施していた。投影方式は 1 チップ DLP 方式で、画素数は 786,432、色再現性はフルカラーとのことであった。この「Glomal 350」で、実際にプロジェクションされていたコンテンツは、旅、空、遊など身近なもので手軽に楽しめそうな気がした。球体投影の秘密は明かされなかったが、魚眼レンズを組み込んでいるように思われた。

3D コンソーシャムは、立体音響による 360 度 VR 制作サービス「StageVR360」を売り込んでいた。ブースには、ポーズの小型スピーカー 7 台による 5.1 チャンネル立体音響システムが設営されており「マレック・シュパキエヴィッチ・チェロ・リ



写真2 3D コンソーシャムは、立体音響による 360 度 VR 制作サービス「StageVR360」を売り込んでいた。

サイタル」の視聴を促していた。HMD は、クリーク & リバーの「IDEALENS K2」であった。また、同コンソーシャムのブースには、Insta360 Pro カメラと 3Dio 収録システムが展示されており注目を集めていた。

「価値ある VR 創造企業」を旗印に掲げたソリッドレイ研究所は、今回、珍しい ER (Electro Rheology) 流体触覚デバイスを出展した。実際に試してみたら、鉄球、コンクリートの壁、食卓のプリンなどで、それぞれ特有の刺激を手で感じる事ができた。

三友は、「OAKTAIL」と名付けた世界初の縦置き 85 インチ裸眼 4K3D ディスプレイを出展して目を引いた。4 視点のレンチキュラー方式を採用しているとのことであった。象の鼻やキリンの首が飛び出したりして臨場感にあふれていた。メーカー名と価格を聞いて見たら「中国のニュートップ製で、定価は 375 万円」との回答であった。

ビジュアル コミュニケーションズの展示・デモ内容は、既述の 3D コンソーシャムの「StageVR360」とほぼ同様であった。ブースの担当者は、「GoPro OMNI」や Insta360 Pro カメラを使って最先端の VR360 度 3D 立体映像を制作している。

新規事業としてドローンを駆使するVR360度撮影も開始した」とPRに余念がなかった。

クリーク&リバーは、同社が得意とするスタンドアロン型VR HMD「IDEALENS K2+」を出展して、ケーブルレスでハイスpekであることを盛んにPRしていた。同社の担当者によれば、「このHMDシステムは、Design Intelligence Award 2017のTop 100を受賞した」という。

サークルは、「Insta360 Pro」VRカメラを搭載したドローンを紹介した。これで空撮したというコンテンツも再生して見せていた。ブースの担当者によれば、同社は、「Phantom 4 Pro」「Inspire 1 Pro」「Cinestar 8」「Spreading Wings」の4機のドローンを所有して、顧客のニーズに対応しているという。

たしてん（多視点を社名にしている）は、独自の立体視デバイスとソフトの研究開発を行っている。実績として、医療データの立体表示のデモを行っていた。

立教大学高田研究室は、裸眼3D立体絵画を披露した。今回デモに使われたのは、イタリアの画家、ジョルジョ・デ・キリコが1914年に発表した「通りの神秘と憂愁」に対するオマージュ作品である。複数の消失点を持ち、現実には再現不可能な空間を立体絵画にすることで画期的な再現を図っているのがすばらしかった。

ビジュアルコンテンツコーナーでは、3D、VR/AR、4K8K、プロジェクションマッピング、デジタルサイネージなどの紹介が行われ、幅広い映像コンテンツを休憩しながら体感できるようにアレンジしてあった。また、CRAVAと電通大が個別にブ



写真3 三友は、世界初の縦向き85インチ裸眼4K3Dディスプレイを出展して注目を集めた。



写真4 サークルは、「Insta360 Pro」VRカメラを搭載したドローンを紹介して空撮の実力を誇示した。



写真5 フリーシステムズは、赤外線サーモグラフィを搭載した「FLIR ドローン・サーマル調査キット」を出展し関心を呼んだ。

レゼンテーションを行っていた。

CRAVAは、11月にリリースしたばかりというVR x 本格鉄道ゲーム「鉄道運転士VR」の試遊を促していた。HTC社のHMD「VIVE」とハンドコントローラを使って、運転士になりきった気分で臨場感のある運転経験ができるのがミソである。

電通大は、「建築材料を用いた空中像光学系」のデモを実施していた。ディスプレイ、AIP（再帰透過光学素子）、視界制御フィルム、反射板を組み合わせて空中像を結像させる少々複雑なシステムである。

「国際画像機器展 2017」

上述した「ビジュアルメディア 2017」の併催イベントとして日本画像・計測機器協会による「国際画像機器展 2017」が開催された。同展示会で目を引いたのは、ハイエンド・ハイスピード・カメラと魚眼カメラシステムだ。

ナック イメージテクノロジーは、「i-Speed 726」を出展し、フルHDの撮影速度12,742コマ/秒と売り込んでいた。メモリーは、1TBのSSDを内蔵している。撮影速度が9,944コマ/秒の「同720」と7,960コマ/秒の「同716」も提供で

きるという。

18bit 諸調魚眼カメラシステム「XVIII Mabel（エクスヴィー マーベル）」を紹介したのは、ビュープラスだ。高感度高諧調に加えて、開発キットで魚眼像の取り込みから歪み補正まで簡素化できているのが特色と言える。

会場で注目を集めていた製品のもう1点は、赤外線カメラのリーダーを自認するフリーシステムズ（本社、米オレゴン州ウィルソンヴィル）が出展した「FLIR ドローン・サーマル調査キット」である。メガソーラー発電システムのパネルの不具合の調査、温排水の確認、電力送電線の高所点検、行方不明者の捜索、侵入者監視などに役立つという。赤外線カメラについては、「ZemuseXTR」を搭載していると説明していた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下（地下駐車場可）
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内（100V）海外（240V）対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125